

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071200863		
法人名	社会福祉法人 聖アンナ福祉会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム たかお		
所在地	和歌山県紀の川市貴志川町高尾194番地1		
自己評価作成日	平成29年 2月25日	評価結果市町村受理日	平成29年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成29年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

買い物、食事の支度、掃除や洗濯物干し、畑仕事等利用者と職員がコミュニケーションを図りながら楽しく共同作業を行なっています。日常生活の中で 自然に楽しめるイベントや季節に応じた行事を出来るだけ取り入れて楽しく活気ある生活を過ごしていただける様に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は畑地に囲まれた自然豊かな山裾にあり、近隣に住宅はないが、利用者や職員は地域に買い物に出かけたり催しに参加するなど、地域住民と触れ合っている。管理者・職員は、利用者一人ひとりのニーズを汲み取ってさりげないサポートに努めており、毎月実施される認知症ケアの研修でサービスの質の向上を図っている。利用者は職員と打ち解けた間柄で、率先して家事を引き受けたり、レクリエーションやクラブ活動で余暇を楽しみながら、自分のペースで自分らしく過ごしている。又、事業所は生活の中で「食事」を特に大切にしており、利用者に美味しく楽しい食事をしてもらえるよう創意工夫を重ねている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員はいつも理念を共有できるようにフロアに掲示し、日々実践につなげるように意識付けをおこなっている。	管理者と職員は、毎月の認知症ケア研修の中で理念について話し合い、理念の理解と共有に努めている。又、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念をフロアに掲示して、常に意識付けを図り実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方から野菜や果物を頂いたり地域の行事に参加したりしている。利用者と近所のスーパーへ買い物や外食に出かけることにより地域の方となじみの関係を構築している。	事業所の自治会加入や、住民代表の運営推進会議参加などにより、事業所は地域と情報を交換し相互理解を深めている。又、利用者や職員は地域での買い物や催しに参加し地域住民と日常的に交流を重ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方と支え合いや交流を目的とし、11月11日を含む一週間、「介護の日」ポスターを玄関に掲示し介護についての理解と認識を深める取り組みをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者の現状報告や行事報告等を行い、会議での意見や要望等をサービス向上に努めている。	家族や地域住民、民生委員、市や地域包括支援センターの職員、法人内の他の事業所職員などの参加を得て、2ヶ月毎に開催している。事業所からの報告に対し、出席者から評価や助言を得てサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時に電話相談を行い、適切なサービスの取り組みに努めている。	市の担当課には機会ある毎に相談や問い合わせをし、地域包括支援センターにはセンター主催の地域ケア会議に参加している。又、事業所の運営推進会議にどちらの職員にも参加を得ており、情報の共有と連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止の為のマニュアルがあり、全ての職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は鍵はかけずに自由に入出りできるが安全の為に見守りは強化している。	職員は定期的な研修により、身体拘束の内容と弊害を正しく理解し、身体拘束しないケアに取り組んでいる。外出したい様子の利用者には、職員も一緒に出かけるなど、本人の意向を汲んだ抑圧感のない暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為のマニュアルがあり、全ての職員が理解し実践に取り組んでいる。言葉遣いも職員相互で気をつけて防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受ける機会は少ないが、必要のある人に対しては支援するように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書で十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス計画見直しの際や面会時には、直接ご家族に意見や要望等お聞きして要望があれば、検討して支援しています。	リビングには、相談・苦情窓口の掲示や意見箱の設置があり、利用者・家族が意見を言い表せる機会を設けている。又、家族が面会や行事で来訪した際は、話しやすい雰囲気づくりを心がけ、利用者・家族から出された意見は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回スタッフ会議を開催し、職員の意見や提案の出来る場を設けている。	管理者は常に職員と意思疎通を図り、職員の声に耳を傾けており、共用室に観葉植物を置くという意見の採用で、居心地よい空間になった例もある。月例会議や朝礼時以外でも直接職員から意見が出されることもあり、出された意見は、討議の上運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課で職員一人ひとりの意見・要望をきいて把握に努め、職員のやりがいや向上心をもって働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成の取り組みを強化すると共に研修参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	併設のデイサービスや特別養護老人ホームとの交流の機会を増やし互いにサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでに訪問、電話相談を行い、本人・家族の状況やニーズの十分な把握・アセスメントに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでに訪問、電話相談を行い、本人・家族の状況やニーズの十分な把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望をお聞きしてアセスメントにより必要とされる支援を見極めて対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出勤した時に「お帰り」といってもらえたり洗濯物や料理をしていると手伝いに来てくれたり暮らしをともにする関係は築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員全員が利用者・家族様のよき理解者となるよう、互いに支え合う関係の構築に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は時間的な制限は無いいつでも自由な時間に面会していただいています。家族様の協力で馴染みの人や場所に外出し、関係が継続出来るように努めている。	買い物や整髪、通院、外食など馴染みの場所への外出は家族と協力して支援している。利用者の知人が併設のデイサービスに来ていれば、デイサービスとホームを行き来して談笑することもある。又、馴染みの人との電話や手紙のやり取りも希望に添って支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、職員が見守りや間に入る事により、利用者同士が良い関係を築くことが出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族の意向に合った関係性を作り、退所後(死去)もご家族様と交流を持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に本人の意向確認を行っており、意思表示が難しい場合は家族や関係者から情報を得ている。	利用者との日々の関わりの中で気づいたことは、事業所独自の24時間介護記録や、申し送り、ケア会議などを通じて職員間で共有し、利用者の意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、その都度本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の時に本人や家族から暮らしの把握を行なっているが、生活していく中で本人の話から把握したりする事もあり、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや会議にて情報共有して現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成・見直しの機会を定期的にもち意見を反映した計画作成に努めている。	利用者・家族の要望を踏まえ、職員達は気づきやアイデアを出し合って意見交換し、介護計画の見直しにつなげている。必要に応じて医師等に相談し、利用者の状況変化に応じて、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子や支援内容を記入して情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要があれば歯科往診・訪問カットサービスなどを受け入れ、柔軟な支援を行っている。希望者には併設のデイサービスの行事にも参加していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアとの交流や地域の行事に参加したりスーパーに買い物に行ったりして楽しい日常生活が送れるように支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と連携を図りながら本人様や家族様の希望を大切に安心して医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の選択は本人・家族の希望に添っている。通院は家族と協力しながら支援しており、家族・職員のいずれが付き添う場合も連絡を密にして情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいないが、必要時は併設のデイサービスの看護師と連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携を図りながら安心して退院できるように情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期について要望があれば家族さまに意向を確認し、話し合いの場を持ち、十分な理解が得られれば方針を共有し意向にそえるように努めている。	利用者・家族には契約時に、重度化・終末期に事業所が出来る事を説明している。実際に重度化した場合は、状況の変化に応じてその都度意向を確認し支援に努めている。職員は、協力医による「看取りに関する講習」を受けるなど前向きに取り組んでいる。又、法人内に特別養護老人ホームがあり、受け入れ体制も整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルを作成し、職員は把握している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回防災避難訓練を実施して避難方法を確認しているが、地域との協力体制は十分ではない。	年2回、利用者も参加して夜間を想定した避難訓練を実施し、職員は災害時の連絡網やマニュアルを熟知している。又、運営推進会議に地区長等が必ず出席してくれており、不時の際、地域の協力を頼んでいる。近隣に住宅はないものの、地区より駆けつけてくれる手はずになっている。災害時用備蓄に飲料水がある。	災害時に備えて毛布やコンロなどの物品や飲料水の備蓄はあるが、食料品はないので、非常食の備蓄も期待したい。又、災害時には地域との協力は不可欠であり、今後も様々な方法で、地域との協力体制作りを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重した声かけや対応を意識して支援するように努めています。	利用者の人格を尊重した支援に努めており、入浴や排泄時の羞恥心にも配慮し、自尊心とプライバシーを損ねない対応を心がけている。個人情報については、書類・パソコンともに取り扱いや保管に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に話しかけ声かけをしてコミュニケーションを図るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活パターンを把握することで、希望にそった支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や入浴の時に着る洋服を本人と一緒に選んだり、男性の入所者様には毎日髭剃りの支援を行っている。理容室・美容室・カットサービスなど本人の希望を伺い支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の体調・気分を考慮し、希望される調理・盛り付け・配膳・下膳・洗い物等出来る作業は一緒に行なっています。	利用者は、買い物や調理、後片付けなどの食事作りを、職員と一緒に自分のできる範囲で楽しんでいる。事業所では栄養バランスや食べ易さだけでなく「おいしさ」も大切にしており、旬の食材を選ぶ、品数を増す、陶器の食器に盛り付けるなど、味や見た目にも創意工夫している。又、自家菜園の作物を賞味することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態に応じた食事の提供や定期的な水分補給を行うと共に、本人の希望に応じて支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ・介助・見守りにて口腔ケアを支援しています。磨き残しは職員が磨いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、個々の排泄パターンを把握することで必要に応じて声かけや誘導で失敗を防ぎ適切な排泄が出来るように支援をしています。	排泄を記録しパターンを把握するとともに、その時々の様子で、日中は全員トイレへ誘導しており、夜間も出来る限りトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握して乳製品の提供や水分補給で自然な排便を促すように支援しています。また、献立に野菜を多く取り入れるように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の希望を聞き、ゆっくりと入浴していたくように支援しています。	ほとんどの利用者は週2~3回、午後に入浴している。くつろいだ気分で入浴できるよう、一人ひとりの希望に添った方法で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間も利用者に合わせて支援しています。室温などの管理を行い、安心して休んで頂けるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の服薬内容が分かる一覧表を作成して周知しています。症状の変化があれば主治医に情報提供して支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごとでは外食会やドライブ会など外出できる機会を設けたり、スーパーへの買い物や余暇活動で気分転換等の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お散歩や外気浴・花の水遣り等に希望に応じて戸外と一緒にいけるように心がけています。	日頃は、近くを散歩したり、庭に出て、花壇の水やりや外気浴、 parasolの下でお茶を飲むなど、屋外での気分転換を図っている。又、近くのスーパーへの買い物などは、利用者の希望に添って個別に支援している。	利用者にとって、日常の外出だけでなく普段行けないような場所への外出も大切である。行きたい場所への外出支援を更に充実できるよう、職員だけでなく、家族や地域ボランティアの協力を得ながら支援を進めることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	アセスメント等にてご本人が金銭の管理ができると判断した方についてはご家族の了解を得て所持していただき自由に使える支援をおこなっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話を利用者に開放していて、家族の制限がない限り自由に出来るようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓には季節の花を飾り 共同スペースは季節の飾り付けをして季節感を感じる事ができるような空間作りに努めています。	玄関を入ってすぐのフロアはゆとりのある共用空間で、どの居室にも面しており利用者の憩いの場となっている。家具調の本箱やゆったりとした一人掛けソファ、食堂と居間部分の仕切りに籐の衝立や観葉植物を配置するなど、落ち着いた雰囲気でも一人ひとりがくつろげるよう工夫している。又、採光、温・湿度、通風、音量なども快適に保たれており、トイレや浴室も清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ワンフロアで一人になれる場所は限られているが、気のあった利用者同士の席を近くに作る等テーブルの配置を考えている。外にベンチを置いたり居場所づくりは支援できるように努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自の部屋には、なじみのある家具を持ち込み 写真を飾ったりして居心地よく過ごされています。	使い慣れた家具を置き、小物類や家族写真、花などを飾っている居室もあれば、すっきりと片付いた居室もあり、利用者は思い思いにその人らしく居心地よく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に表札を掲げたり、トイレの入り口が分かるように表示し自立した生活が送れるように支援しています。		